

全体版の概要 埼玉県四半期経営動向調査(平成18年10～12月期)

I 調査結果の総括

1 県内中小企業の経営動向

総括

県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きにやや足踏み感がみられる。
(景況感が2期ぶりに悪化した。景況感DI:前期 ▲39.3 → 当期 ▲41.7)
今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。

2 県内中小企業の経営者からみた経営動向

(1) アンケート調査結果から

○経営者の景況感

【県内中小企業の景況感DI】

▲41.7で、前期比2.4ポイント低下。2期ぶりに悪化。

＜業種別にみた景況感DI＞

【製造業】

▲32.6で、前期比3.1ポイント低下。2期ぶりに悪化。

「電気機械器具」や「鉄鋼業・非鉄金属」などの10業種で悪化。

「家具・装備品」及び「食料品」の2業種は改善。

【非製造業】

▲49.0で、前期比1.7ポイント低下。2期ぶりに悪化。

「卸売・小売業」、「情報サービス業」及び「建設業」の3業種で悪化。

「運輸・倉庫」、「不動産業」、「サービス業」及び「飲食店」の4業種は改善。

○売上げ／3期連続で改善。来期は悪化する見通し。

○資金繰り・採算／2期ぶりに改善。来期は悪化する見通し。

○設備投資／実施率は前期と同じ。来期は低下する見通し。

(2) ヒアリング調査結果から

○経営者の景況感

【製造業】 輸送用機械器具やプラスチック製品などの多くの業種は、
おおむね横ばいで推移している。

【小売業】 一部に明るい兆しはあるものの、弱含んでいる。

【情報サービス業】 上向いている。

II 調査要領

1 調査の対象

県内中小企業

2 調査の方法

(1)書面によるアンケート調査 (2)業界団体及び個別企業への訪問ヒアリング

3 調査対象期間

平成18年10～12月(調査時期:平成18年12月)

4 調査対象業種及び回答数

① アンケート調査・・・景況感など、特別調査事項

・ 製造業 : 960企業中、回答数 661企業 (回答率68.9%)

・ 非製造業※ : 1,240企業中、回答数 826企業 (回答率66.6%)

計 : 2,200企業中、回答数1,487企業 (回答率67.6%)

※製造業(12業種) : 食料品、衣服・その他の繊維製品、家具・装備品、
パルプ・紙・紙加工品、印刷・出版、プラスチック製品、
鉄鋼業・非鉄金属、金属製品、一般機械器具、電気機械器具、
輸送用機械器具、精密機械器具

※非製造業(7業種) : 建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、
運輸・倉庫、不動産業、サービス業

②ヒアリング調査

・ 製造業 : 23企業・組合

・ 小売業 : 9企業・商店街

・ 情報サービス業 : 3企業

計 : 35企業等

5 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県産業労働センター

Ⅲ 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

(1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感は2期ぶりに悪化した。今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

〈景況感DI : 前期 → 当期 (前年同期)〉

・全体 : ▲39.3 → ▲41.7 (▲42.6)

- ・製造業：▲29.5 → ▲32.6 (▲31.1)
- ・非製造業：▲47.3 → ▲49.0 (▲49.8)

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：10.4% → 7.8%
- ・製造業：11.5% → 7.9%
- ・非製造業：9.5% → 7.8%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：20.9% → 25.8%
- ・製造業：20.7% → 23.9%
- ・非製造業：21.0% → 27.3%

(2) 売上げについて

3期連続で改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の売上げDIは、製造業は2期ぶりに、非製造業は2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを下回る見通しである。

〈売上げDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲10.6 → ▲5.2 (3.6) → ▲18.3
- ・製造業：▲8.6 → 0.5 (12.3) → ▲19.3
- ・非製造業：▲12.2 → ▲9.8 (▲1.8) → ▲17.5

(3) 資金繰りについて

2期ぶりに改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の資金繰りDIは、製造業は3期ぶりに悪化したが、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りDIを下回る見通しである。

〈資金繰りDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲16.4 → ▲16.0 (▲8.8) → ▲20.3
- ・製造業：▲11.9 → ▲12.2 (▲1.6) → ▲18.3
- ・非製造業：▲20.1 → ▲19.1 (▲13.3) → ▲21.8

(4) 採算について

2期ぶりに改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の採算DIは、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算DIを下回る見通しである。

〈採算DI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲28.9 → ▲25.6 (▲18.3) → ▲27.5
- ・製造業：▲26.7 → ▲23.4 (▲9.2) → ▲26.8

・非製造業：▲30.7 → ▲27.3 (▲24.0) → ▲28.0

(5) 設備投資の動向について

実施率は、前期と同じだったが、来期は低下する見通しである。

実施率は、製造業は2期ぶりに低下したが、非製造業は3期ぶりに上昇した。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

・全体：26.7% → 26.7% (27.6%) → 21.1%

・製造業：34.6% → 32.5% (34.1%) → 29.4%

・非製造業：20.2% → 22.0% (23.5%) → 14.3%

2 ヒアリング調査結果の概況

(1) 製造業

【景況感】輸送用機械器具やプラスチック製品などの多くの業種は、

おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】増えた業種もあったが、前年同期よりも減っている業種が多い。

【受注単価】下がった業種もあったが、ほとんど変わらない業種の方が多かった。

【採算性】ほとんど変わらない業種もあったが、原材料価格の上昇などで悪化した業種が多かった。

【原材料価格】上昇した業種もあったが、ほとんど変わらない業種が多かった。

【品目別の状況】医療機器関連や携帯電話関連などが好調であるが、射出成形機関連などは減少傾向である。自動車関連については、安定している業種と減少している業種に分かれた。

【設備投資】一般機械、輸送用機械器具及び電気機械器具を中心に、生産設備の新規導入や老朽設備の更新などを実施した企業がみられた。

(2) 小売業

【景況感】一部に明るい兆しはあるものの、弱含んでいる。

- ・百貨店は、明るい兆しはあるものの、一部で弱い動きがみられる。
- ・スーパーは、弱い動きがみられる。
- ・商店街は、厳しい状況が続いている。

(3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

【景況感】上向いている。

[このページに関するお問い合わせ先]

産業労働部産業労働政策課 調査分析担当 Tel:048-830-3723 Fax:048-830-4818 E-mail:a3710@pref.saitama.lg.jp